

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の患者発生について

県内において、重症熱性血小板減少症候群(以下、「SFTS」という。)の患者が平成25年8月5日(7/23発病)に確認されました。

SFTSはSFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで主に感染します。マダニは春から秋にかけて活動期であることから、草むらや藪などマダニが多く生息する場所に入る場合には、マダニに咬まれないよう長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくするなど、注意しましょう。

【感染予防策について】

ダニに咬まれることにより感染する病気は、SFTSのほか、日本紅斑熱、ライム病があります。また、マダニではありませんが、ダニの一種のツツガムシによって媒介される、つつが虫病もあります。

(1) マダニに咬まれないようにすることが重要

- ・草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくする。
- ・屋外活動後は入浴し、マダニに咬まれていないかを確認する。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部などがポイントです。

(2) マダニに咬まれたら

- ・ダニに咬まれても、痛みや痒みはあまりなく、気づかないことが多いようです。放置すると数日間以上吸着して吸血し続けますので、みつけたら早めに取り除きましょう。
- ・簡単に取り除けないことが多く、無理にとろうとすると、つぶれたり一部が残ってしまうことがあるので、できるだけ医療機関(皮膚科等)を受診し処置してもらってください。
- ・マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関を受診し、マダニに咬まれたことを伝えてください。



フタトゲチマダニ (出典：国立感染症研究所)

【重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について】

（１）病原体及び症状等

ブニヤフレボウイルス属 SFTS ウイルスによる感染症で、主に SFTS ウイルスを保有するマダニ※に刺咬されることで感染します。

症状は発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）を主徴とし、時に、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴う、血液所見では、血小板減少、白血球減少、血清酵素の上昇が認められる。致死率は10～30%程度である。

※ マダニは、国内広く分布し、草むらや藪に多く生息しています。食品や衣類などに発生するダニとは全く種類が異なります。

（２）発生状況

平成 23 年に初めて特定された新しいウイルス（SFTS ウイルス）に感染することにより引き起こされる病気です。平成 25 年 1 月に国内で初めて SFTS の患者が確認されました。

これまでの患者が確認された都道府県は、山口県、島根県、岡山県、広島県、徳島県、愛媛県、高知県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県です（平成 25 年 8 月 5 日現在）。

【問い合わせ先】

加東健康福祉事務所 健康管理課

TEL: 0 7 9 5 - 4 2 - 9 4 3 6（直通）

【関連リンク】

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について（兵庫県）

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf16/sfts.html>

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_ga.html

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について（国立感染症研究所）

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/sa/sfts.html>